

平成26年度 第24回全国女性建築士連絡協議会 アピール

公益社団法人日本建築士会連合会
女性委員会

全国女性建築士連絡協議会は、平成2年に東京で第1回目を開催後、各地域で開催し、今年で第24回目を迎えました。

多くの爪痕を残している東日本大震災以降、私たち建築士は支援活動や防災への取り組みを現地で、また各地域で行なっています。継続して発信すること、取り組むことの重要性を再認識し、皆で共有し色あせない活動に繋がっていきたいと考えています。

本年度は、メインテーマを「未来へつなぐ居住環境づくり」とし、「大切にしたい暮らし方」をサブテーマといたしました。20周年を超えて新しいステージに向かう私達女性建築士は、震災や原発などの課題に立ち向かい、将来を担う子供達の暮らしを守るために、今の暮らしを見つめ未来に向けた取り組みを継続します。

1日目の約300名の女性建築士が一堂に会する全体会では、基調講演にコミュニティの専門家である荒昌史氏をお迎えし、『ネイバーフッドデザイン～東日本大震災から学ぶ“よき避難者”を育成する防災減災～』をテーマにご講演いただき、引き続き、2件の事業報告「在宅要介護高齢者の住まいのあり方に関する調査事業 進捗報告」、「地域高齢者居住環境アセスメント等モデル事業 進捗報告」及び、各県の活動発表、被災地における現状報告と取り組みを発表していただきました。

2日目の分科会では、「震災① 防災への取り組み」「震災② ボランティア活動の報告」「歴史的建造物と建物再生」「素材と環境共生住宅」「景観まちづくり」「子どもと住環境」「高齢社会と福祉住宅」「集まって住む」の8つのテーマのもとにそれぞれで熱心に討論を進めました。

それらの成果として、以下の点を、今年のアピールとして発表します。

1. 私たちは、今回の協議会を通し、女性建築士として、生活や地域に根付いた活動を行ない、未来を担う子どもたちや、生活の礎を築いてこられた高齢者にとって安全安心な「未来につなぐ居住環境づくり」を目指します。
2. 私たちは、今回の基調講演を通して、女性建築士の専門職としての社会的責任とコミュニティの重要性を再認識し、災害時のハードとソフトの両面から防災にむけて取組めます。
3. 私たちは、継続して行なっている東日本大震災の被災地における報告を通し、震災を過去のものにしない継続した取組みと原発などの課題に向き合い、「大切にしたい暮らし方」を守ります。
4. 私たち建築士は、異業種の専門家との連携の重要性を認識し、地域団体、企業、行政等の専門家と協働して、誰もが暮らしやすい社会の実現を目指し、社会への情報発信と諸活動を実践します。